

## 2025年度 宇治市地域自立支援協議会相談支援部会活動報告

### 1. 部会の目的

- 1) 宇治市との情報共有、相談支援専門員の研鑽。
- 2) 困難事例や業務上の悩みを気軽に話し合いながら、相談員が孤立しないように集える場所であることを大切に活動する。

### 2. 活動概要

- 1) 会議の開催：毎月第3木曜日 13時30分～15時30分
- 2) 参加対象者：宇治市内の相談支援事業所に所属する相談支援専門員
- 3) ケース検討と勉強会、事業所見学を年間計画に沿って実施。宇治市内で計画相談支援を必要とする方の事業所とのすり合わせ。

### 3. 主な参画団体

- ・指定特定相談支援事業所19ヶ所
- ・宇治市障害福祉課

### 4. 今年度の部会開催日及び開催内容

	開催日	開催内容
1	4月17日	年間計画の協議、事業所視察当番の決定、宇治市こども家庭相談事業紹介
2	5月15日	年間計画の確定、事業所視察先についての意見交換
3	6月19日	グループワーク（相談支援業務のお悩み相談会）
4	7月17日	グループホーム3類型別に事業所紹介（介護サービス包括型、日中サービス支援型、サテライト型住居）
5	8月21日	講演「重症心身障害者と呼ばれる息子の一人暮らし生活～障害があっても選 択できる暮らしの場を～」 講師：沖田 友子 様
6	9月18日	講演「地域で自分らしく暮らすこと～重度身体障害者の自立生活～」 講師：大藪 光俊 様 講演「元治の部屋」 講師：佐々木 和子 様
7	10月16日	事業所視察：社会福祉法人みねやま福祉会 マ・ルート（京都府宮津市）
8	11月20日	グループワーク（相談支援業務のお悩み相談会）
9	12月18日	講演「表現活動を通してのこども理解」 講師：古田 直樹 様
10	1月15日	講演「障害福祉と成年後見制度」 講師：特定非営利活動法人山城権利擁護ネットワーク 藤村 明生 様 宇治市保健推進課の事業紹介
11	2月19日	講演「障害年金の基礎知識」 講師：京都駅前社会保険労務士法人 船田 光朗 様
12	3月19日	今年度の振り返りと次年度に向けて

## 5. 現状と次年度以降への課題

今年度は「障害のある方の自立生活を考える」を主なテーマとして活動を行った。

7月には生活スタイルの一つであるグループホームについて理解を深めるため、実際に現場で働かれている職員の方から、利用者がどのような生活を送っているのか、ホームとしてどのように運営しているのかについてお話を聴いた。3種類の類型（介護サービス包括型、日中サービス支援型、サテライト型住居）や運営法人ごとに特色があり、各相談支援専門員が担当している方へ提案する際、より具体的に入居後の生活をイメージできるようになった。

8月と9月にはグループホームや施設入所ではなく「一人暮らし」という生活を選択した、重度障害のある方や、知的障害のある方のご家族からお話を聴いた。どの方も一人暮らしが軌道に乗るまでは紆余曲折あったが、結果的に「今の生活が自分らしくいられる」と仰っており、一つの選択肢として、福祉サービスを利用しながら一人暮らしをすることの可能性を感じる事ができた。

10月には多様な自立生活についての知見を得るため、障害、高齢、保育施設を「ごちゃまぜの福祉」として一体的に展開する、社会福祉法人みねやま福祉会の「マ・ルート」（宮津市）の事業所視察を行った。こどもとの交流を通じて高齢者にリハビリの意欲が生まれ、行動障害のある利用者がこどもと接することで、他者への配慮が見られるようになる等、分野を超えた交流が利用者にとってよい変化をもたらした事例を確認できた。

その他にも、日ごろの支援方法や悩みについて共有するグループワークや、児童支援、成年後見制度についての講演を聴き、相談支援専門員としての自己研鑽を行った。

宇治市においては、新規開設の増加によりグループホームへの入居者が増えている一方で、地域で暮らしていくための選択肢は依然として限られている。

そこで、相談支援専門員自身が「自分だったらどんな生活を送りたいだろう」という視点を大切にしながら、これまでより一層、本人の立場に立ったヒアリングを心掛ける。その中で、「一人暮らし」を含めた様々な選択肢について、対話を重ねながら共に考える。そして、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、本人の自己選択と自己決定を尊重した相談支援をこれまで以上に行っていく。